

科目名称：	総合表現演習	
担当者名：	上野 高裕	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
<p>幼児期は、豊かな感性と表現力を育むために大事な時期である。そのためには、心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な表現の仕方に気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わう経験が必要である。このような経験を支えるべく、保育者も同様に表現が楽しめるよう体験していく。また、実際に子どもたちが見て楽しめる表現を目指し、実践的、応用的な表現力を身に付けたい。</p>		
授業の達成目標・到達目標		
<p>○音楽表現、身体表現、美術表現を総合的にとらえ、舞台発表作品を作り上げる。 ○発表までの計画、準備、練習、そして発表、後片付け、振り返りまでの一連の作業に主体的に取り組む。 ○自ら楽しむとともに、チームでの話し合い、創意工夫、協力しながら取り組む。</p>		

留学生別科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)				100	100
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
共同作業意欲	仲間と協力し、とても積極的に活動している	仲間と協力し、積極的に活動している。	仲間と協力している	協力することができない
表現意欲	現場で即実践できる	アピールしようとしている	表現に対してやや消極的である	表現に対してかなり消極的である
歌唱技術	自然で無理のない声で正しい音程で歌える	元気よく大きな声で歌える	音程は取れている	ほとんど声が出ない
授業態度	何事にも積極的に取り組んでいる	積極的に取り組む姿勢がみられる	取り組んでいる	参加しようとする意欲がない

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 授業内容、計画について説明。表現遊び	シラバスを読んでおく	40分
第2回 舞台発表の基本、劇遊び(グループワーク)	劇遊びのできるお話を考えておく	60分
第3回 身体表現、劇遊び(グループワーク)	劇遊びの準備をしておく	60分
第4回 身体表現、劇遊びの発表	劇遊びの発表練習をしておく	60分
第5回 チームに分かれて選曲(グループワーク)	自分の歌いたい曲を選んでくる	30分
第6回 チームに分かれて振付(グループワーク)	振付や演出を考えておく	30分
第7回 チームに分かれて振付(グループワーク)	振付をチームで決めておく	3030分
第8回 チームごとに練習、衣装・小道具説明(グループワーク)	振付をチームで協働しながら決めておく	30分
第9回 チームごとに練習、衣装・小道具相談(グループワーク)	振付練習、衣装、小道具等相談をチームで相談し決めておく	30分
第10回 チームごとに練習、衣装・小道具作成(グループワーク)	振付練習、衣装、小道具等相談をチームで相談し決め、準備しておく	60分
第11回 全体を通して練習	通し練習のために事前に練習をしておく	60分
第12回 全体を通して練習	通り練習のために完成させておく	60分
第13回 合同練習	練習、衣装、小道具等を確認しておく	30分
第14回 合同練習の振り返りと練習	ミュージックフェスティバルに向けて最終確認をしておく	30分
第15回 発表の振り返りと反省	発表の反省を自分なりにしておく	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め短期大学設置基準で規定された学修時間が必要である。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。

発表に向けての練習、準備、本番、後片付け等、取り組み方、チームへの協力の姿勢で100%評価

課題に対するフィードバック

毎時間ごとに、進捗状況を発表し、本番に繋げていく。

教科書・参考書

参考図書、楽譜類は各自で準備する。 参考資料等は適宜配布する。